

時代を超えて  
親しまれる

土山歴史民俗資料館で4月7日から5月27日までの間、「田村神社の社宝展」が開かれています。

この企画展では、神社本殿や収蔵施設の建て替えに伴って確認された資料をはじめ、貴重な資料の数々を展示しています。

新たに確認された古文書は、江戸時代の133点、明治以降の289点にものぼり、これらからは、田村神社が諸大名から篤い崇敬を受けていたことや、広い範囲にわたって信仰されてきた様子がうかがえます。

また、企画展開催を記念して、5月6日には、皇學館大学文学部助教の木村徳宏氏を講師に迎え、「歴史でひもとく土山と田村神社」というテーマで講演が行われました。

◆期 間／5月27日(日)まで(月・火休館)  
◆開館時間／10時～17時

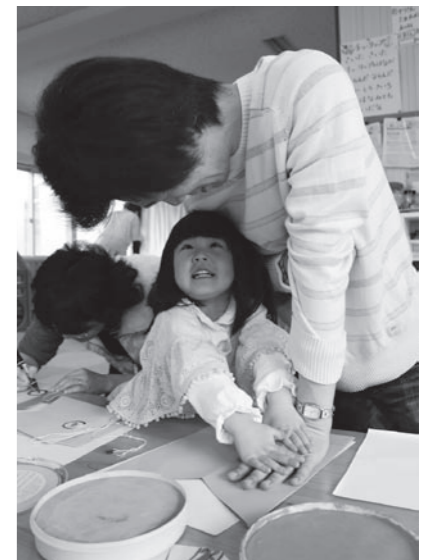
田村神社の社宝展



▶貴重な資料が展示されている

お父さんと手形ペッタン  
こいのぼり作り

信楽地域子育て支援センター



▲きれいに押せたかな

信楽地域子育て支援センターで4月21日、お父さんと楽しむ催し「パパッとあつまれ！」が開かれ、6組の親子が参加しました。

自己紹介や歌遊びで交流を深めた後、親子でこいのぼりの形をした色画用紙に手形を押し、色とりどりの手作りこいのぼりを仕上げました。

大きな手形と小さな手形が並び、中には足型の押されたユニークな鯉のぼりもあり、参加された方は親子のふれあう楽しいひとときを過ごしました。

ひと足早く一番茶を手摘み

今年も市内各地で新茶の収穫が始まりました。これに先立ち、県農業技術振興センター茶業指導所で4月19日、ハウス茶研修会が開催されました。

当日は、ハウス栽培の新茶の手摘みと製茶の研修会が行われ、参加した生産者や関係者など約30名が、芽の正しい摘み方などを確認しながら、県内でもっとも早い茶摘みに汗を流しました。

今年の茶の生育について、同指導所では「適度な冬の寒さと、雨、4月に入り温度もあがったので順調に育ち、上々の出来です。」と話しています。



▲丁寧に芽を摘み取る参加者

春の夜を幻想的に彩る

水口曳山祭

恒例の水口曳山祭が、4月19・20日に行われました。今年は2年ぶりの曳山巡行とあって、両日とも大勢の人々が見物に訪れました。

前夜の宵宮祭では、たくさんの提灯が飾り付けられた曳山が、水口神社境内のほか、各町の山倉(蔵)前に出され、伝承された水口囃子の軽快な演奏が響き渡り、町中がお祭りを祝うムードに包まれていました。

翌日の例大祭は、あいにくの雨の中の曳山巡行となりましたが、各町から巡行されてきた7基の曳山が水口神社に一同に集まった姿は圧巻で、訪れた人々を魅了していました。

夕刻に近づき、曳山が各町へ戻る「帰り山」と呼ばれる頃には雨もあがり、提灯などで飾られた暗闇に浮かぶ曳山が、とても幻想的な春のひとときを醸し出しました。



▲帰り山を待つ幻想的な曳山の姿

ミシガン州の  
友だちと交流

米国ミシガン州にあるサウスフィールド公立学校の小中学生と教職員など34名が甲賀市を訪れ、土山小学校と水口東中学校の2つの学校を訪問しました。

この交流は、以前から滋賀県を訪れていた同校長が、生徒との訪問を要望して実現したものです。

23日に訪れた土山小学校では、歓迎セレモニーが行われ、校歌や鈴鹿馬子唄などで歓迎を受けたミシガン州の生徒らは、この日のために練習した「ミシガンの歌」を披露しました。

このあと、給食を共にしたほか、5、6年生との授業では「じゃんけんゲーム」を通して交流を深めた後、近くの寺院で茶道を体験し、甲賀流忍術屋敷も見学するなど、市内で日本の魅力を満喫しました。

青土ダム鯉のぼり渡し



▲新緑の青空に泳ぐ鯉のぼり

今年、市内を中心に県内外から新たに26件の寄付があり、使われなくなったこいのぼりが新緑の青空によみがえりました。

4月29日から5月6日にかけて、青土ダムを横断するように150匹以上ものこいのぼりが並びました。

よみがえったこいのぼり大空に

地元のボランティア団体である鮎河緑花クラブが、各家庭で使用しなくなっ

土山小学校

▼「ミシガンの歌」を披露するサウスフィールド公立学校の生徒

